

こども安全対策分科会

課題1	<p style="text-align: center;"><乳幼児> ・0～4歳の救急搬送件数が多い ・養育者のヒヤリハット経験が多い</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
養育者への啓発	<p>① 実施者・協働者 区役所、保育施設、地域子育て支援拠点、地域の訪問員、分科会委員</p> <p>② 対象 主に0歳から4歳児の養育者</p> <p>③ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故予防啓発用の クリアファイルやリーフレットの配布 ・地域育児教室での保健師による ワンポイントアドバイスの実施 ・乳幼児健診時での 事故予防チェックリストの配布 ・事故予防に関する養育者向けアンケートの実施 <p>④ 過去一年間の改善点 養育者向けアンケートについて、事故予防の対策方法を知っているけれども、「実際には行っていない」と回答した場合に、その理由を記載する項目を新たに設けて、養育者の意識・行動を把握することができた。</p>	<p>《配布数》 ファイル：785部 リーフレット：814部</p> <p>《参加者数》 306人</p> <p>《配布数》 2,484人</p> <p>《回答者》 4か月児：84人 1歳6か月児：95人</p>

課題2	<p style="text-align: center;"><学齢期> 小学校内で起きた事故は大人の目が行き届かない 「休憩時間」に発生することが多い</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
子どもへの注意喚起(KYT(危険予知トレーニング)の実施)	<p>① 実施者・協働者 子ども会、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 主に小学生、KYT指導者（地域の方）</p> <p>③ 実施内容 ・子ども会主催のKYT指導者育成講習会を実施 ・分科会委員がKYT講習会を体験する機会を設け、それぞれの所属団体の取組への活用を検討 ・各小学校に設置されている放課後を過ごす施設のスタッフ向けにKYT指導者育成講習会を実施 ・子ども会や放課後施設を中心にイベント開催時に合わせたKYTの実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 市立小学校に設置されている放課後を過ごす施設においてKYTを実施したことで、より多くの子どもたちがKYTを体験する機会を得ることができた。</p>	<p>《参加者》137名 《実施回数》1回</p> <p>《実施回数》38回 《参加児童数》731人</p>

課題3	<p style="text-align: center;">＜学齢期＞</p> <p style="text-align: center;">「怖い人と出会う」のは家や学校の周辺である</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
地域の住民による見守り	<p>① 実施者・協働者 地域住民、保護者（PTA）、区役所、分科会委員</p> <p>② 対象 主に小学生、中学生</p> <p>③ 実施内容 ・地域住民や保護者による登下校時の通学路の安全見守り ・「こども110番の家」の登録を呼びかける活動（新入生保護者説明会や地区懇談会など） ・小中学校でのあいさつ運動、子どもたちの地域行事への参加 ・少年補導員によるサイバー教室やネットサミットの開催 ・安全安心な地域づくりに関する学校（児童生徒向け）アンケートの実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 取組の効果を検証するため、子どもたちへのアンケートを継続実施した。（地域の大人との「顔の見える関係づくり」が進められ、安全安心な地域であると感じているかを確認した。）</p>	<p>≪参加者数≫1,750人</p> <p>≪登録軒数≫2,384軒</p> <p>≪実施回数≫ 1回</p> <p>≪回答者数≫ 小学5年生：251人 中学2年生：296人</p>

スポーツ安全対策分科会

課題1	＜全年代＞スポーツ活動時の準備運動不足、技術不足	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
けが予防講習会の開催	<p>① 実施者・協働者 栄区体育協会、栄区スポーツ推進委員連絡協議会、栄区青少年指導員協議会、さわやかスポーツ普及委員会、NPO法人さかえスポーツくらぶ、スポーツ安全対策分科会</p> <p>② 対象 分科会構成団体、栄区民</p> <p>③ 実施内容 各団体及び分科会において講習会を実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 けが予防講習会として実施したウォーキング講習会では、体幹の強化、転倒予防や接触回避といった、けが予防の観点をより多く取り入れた。</p>	<p>＜実施回数＞ 4回（スポーツ安全対策分科会研修会、栄区体育協会、栄区スポーツ推進委員連絡協議会全員研修会、栄区青少年指導員協議会全員研修会）</p>

題2	＜20代～70代以上＞日頃の運動不足	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
ウォーキングの推進	<p>① 実施者・協働者 スポーツ安全対策分科会、区役所</p> <p>② 対象 分科会構成団体、栄区民</p> <p>③ 実施内容 ・ウォーキングの効果や正しい歩き方に関するチラシの配布</p> <p>④ 過去一年間の改善点 啓発チラシの配布先を、区役所や団体だけでなく、区内公共施設や駅PRボックス等にも広げ、広くウォーキングの効果について周知を行った。</p>	<p>＜配布数＞5,000部</p>

交通安全対策分科会

課題1	<こどもの交通事故> 自転車事故への対策	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
自転車ヘルメット着用啓発	<p>① 実施者・協働者 交通安全対策分科会、区内小学校・保育園、スクールゾーン対策協議会、区役所</p> <p>② 対象 12歳以下の子ども及び保護者</p> <p>③ 実施内容 ・小学校・保育園への自転車ヘルメット着用を促す啓発チラシ（区内の自転車販売店と協力し、自転車の無料点検や、幼児・児童向け自転車用ヘルメット割引などのサービスが受けられる特典付き）配布 ・各小学校のスクールゾーン対策協議会におけるヘルメット着用の必要性の説明</p> <p>④ 過去一年間の改善点 小学校、保育園へのヘルメット着用チラシ配布のほか、自転車に関する交通安全キャンペーン時においても、チラシの配布を行うなど、周知方法の拡大に努めた。</p>	<p>≪配布数≫9,000部</p>

課題2	<p style="text-align: center;"><こどもの交通事故> 登下校時の事故への対策</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
スクールゾーン対策	<p>① 実施者・協働者 スクールゾーン対策協議会、自治会・町内会、栄交通安全協会、栄交通安全母の会連絡会、各種団体の見守り隊、栄警察署、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 栄区内小学校（14校）</p> <p>③ 実施内容 ・各学校スクールゾーン対策協議会や交通安全対策分科会委員による通学路の危険箇所の確認、協議会での協議・検討、必要な箇所の改善</p> <p>④ 過去一年間の改善点 要望事項の把握に向け、新たに要望箇所の事前立ち合いの実施に取り組んだ。</p>	<p>《改善箇所数》 72箇所</p>

課題3	<p style="text-align: center;"><高齢者の交通事故> 自動車事故への対策</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
<p>高齢者交通安全教室</p>	<p>① 実施者・協働者 栄交通安全協会、栄交通安全母の会連絡会、栄区シルバーリーダー連絡協議会、栄警察署、分科会委員</p> <p>② 対象 65歳以上の高齢者</p> <p>③ 実施内容 ・交通安全教室や安全運転講習の実施 ・チェックリスト等の結果による専門機関の受診や免許返納の検討の促進啓発</p> <p>④ 過去一年間の改善点 高齢者向け交通安全教室の実施に加え、高齢者の事故防止に向けて、反射材入りの啓発物品の新規作成および配布を行った。</p>	<p> ≪実施回数≫33回 ≪参加者数≫1,612人 ≪免許返納数≫634件 </p>

児童虐待予防対策分科会

課題1	<地域への虐待防止啓発・親への情報提供> 子育てに自信を持たず、不安を抱える母親が数多くいる	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
さかえっ子の 笑顔ひろげ 隊	<p>① 実施者・協働者 主任児童委員・地域子育て支援拠点、区社会福祉協議会、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 地域住民、関係機関</p> <p>③ 実施内容 ・身近な地域に出向いての児童虐待防止啓発や見守り活動の周知 ・子育ての相談先の啓発活動実施 ・次世代育成のための『赤ちゃんふれあい体験』の開催</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・子育て関連イベントを活用した啓発活動の実施 ・モデル中学校における赤ちゃんふれあい体験の開催</p>	<p>《実施回数》13か所 《対象人数》1,598人</p> <p>《実施校》 地域育児教室版 中学校：2校 授業版 モデル中学校：1校 《参加者数》 地域育児教室版：6名 授業版：161名</p>
こんにちは赤 ちゃん訪問	<p>① 実施者・協働者 区役所、こんにちは赤ちゃん訪問員、分科会委員</p> <p>② 対象 生後4か月までの乳児がいるすべての家庭</p> <p>③ 実施内容 ・訪問員（主任児童委員、分科会メンバーなど）が訪問し、地域の子育て情報を提供 ・地域での見守り活動</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・妊娠期からの事業周知による訪問率の向上</p>	<p>《訪問件数》 763件（訪問率95.7%）</p>

課題2	<p align="center"><関係機関の連携強化・親への専門的支援> 児童虐待に至るリスクを抱えている養育者が存在している</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
栄区虐待防止連絡会	<p>① 実施者・協働者 区役所</p> <p>② 対象 栄区児童虐待防止連絡会委員 ・民生児童委員、主任児童委員、学校関係者、幼稚園・保育園関係者、自治会・町内会関係者・医療機関、教育委員会、児童相談所、分科会委員他24団体、40名で構成</p> <p>③ 実施内容 ・児童虐待の現状、栄区の子育て支援、地区の子育て支援に関する情報共有、意見交換</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・地区単位での虐待防止連絡会の開催</p>	<p>《実施回数》 全体会：年1回 地区別連絡会： 年7回（全地区）</p>
専門家による早期対応	<p>① 実施者・協働者 区福祉保健センター保健師、助産師、社会福祉職等</p> <p>② 対象 主に妊娠期、乳幼児時期の子ども及び養育者</p> <p>③ 実施内容 ・母子健康手帳交付時の看護職による全数面接 ・母子訪問時のEPDS実施 ・EPDS高得点者及び育児不安を抱える養育者の支援 ・児童虐待に対する早期対応、支援等</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・育児不安の軽減を図るための個別相談、教室プログラムの見直し</p>	<p>《母子訪問員による第1子への訪問実施件数》277件</p> <p>《EPDS実施件数》194件</p> <p>《児童虐待対応件数》59件</p> <p>《個別ケース検討会議実施数》：35件</p>

高齢者安全対策分科会

課題1	高齢者の転倒・転落事故が多い	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
転倒予防に資する取組	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、元気づくりステーションリーダー、栄消防署、民生委員、保健活動推進員、地域包括支援センター、区役所</p> <p>② 対象 元気づくりステーション所属メンバー、元気づくりステーション・筋トレ自主会・地域ケアプラザ講座等の参加者、地域サロン等の参加者</p> <p>③ 実施内容 ・元気づくりステーションの普及 ・転倒予防の重要性や転倒予防体操実技の啓発 ・住環境改善の啓発</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・転倒予防体操の啓発を新たに広げていくとともに、既に啓発済みの団体にも、取組の継続を働きかけた。 ・身近な地域に転倒予防体操を広げるために、支援者の育成を図った。支援者向けの講習会のほか、支援者向けの手引きを作成し、地域に広げるための人材を育成した。</p>	<p>《グループ数》17 《参加人数（延べ）》17,735人</p> <p>《転倒予防リーフレット配布数》1,616枚 《転倒予防体操に取り組んだ人》8,846人</p> <p>《住環境改善リーフレット配布数》4,471部</p> <p>※一部の元気づくりステーションやサロンで、普段の活動の中で転倒予防体操を取り入れたほか、地域の支援者を育成し、身近な地域で、転倒予防体操を実践した。</p>

課題2	高齢者の冬場の溺死・溺水件数が多い	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
ヒートショック 予防の普及	<p>① 実施者・協働者 高齢者安全対策分科会、民生委員、保健活動推進員、地域包括支援センター、区役所</p> <p>② 対象 ヒートショック出前講座受講者、分科会委員所属団体、区民まつり・イベント等来場者</p> <p>③ 実施内容 リーフレットやパネル、アンケートを活用したヒートショック対策の説明</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・区民まつりなど多数の人が集まる場でのほか、高齢者宅に訪問する際に、個々にきめ細かい啓発を行った</p>	<p>≪リーフレット配布数≫16,719部</p> <p>≪出前講座等参加人数（延べ）≫2,098人</p>

災害安全対策分科会

課題1	＜地域防災拠点の課題＞学校との連携・実践的な訓練の必要性	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
実践的な防災拠点訓練の実施	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、地域防災拠点運営委員、区役所</p> <p>② 対象 地域防災拠点運営委員、拠点訓練参加者（区民）</p> <p>③ 実施内容 ・地域防災拠点訓練への参加者増加のための啓発 ・実践的な訓練内容へのシフトの推奨</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・地域防災拠点訓練においては、運営訓練に主眼をおいてもらうべく、その周知を地域防災拠点連絡協議会以外にもさまざまな場面で行った。また、訓練参加者数増加のため、訓練参加の啓発物品を作成、配布した。</p>	<p>・実践的な訓練内容を取り入れる拠点数の増加</p> <p>・地域住民の訓練参加者の増加</p>

課題2	＜災害時要援護者支援の必要性＞訓練を実施しているのは一部のみ	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
災害時要援護者支援の取組拡大	<p>① 実施者・協働者 区役所、自治会・町内会</p> <p>② 対象 自治会・町内会</p> <p>③ 実施内容 自治会・町内会が実施する災害時要援護者避難支援訓練に対して、経費の一部を補助</p> <p>④ 過去一年間の改善点 計画時に補助金を踏まえた検討をしやすくするため、自治会・町内会への周知時期を早めた。</p>	<p>≪補助金を交付し、訓練を実施した自治会・町内会数≫ 4自治会・町内会</p>

課題3	より身近な避難所の必要性	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
地域避難所の設置及び訓練実施	<p>① 実施者・協働者 自治会・町内会、分科会委員</p> <p>② 対象 自治会・町内会</p> <p>③ 実施内容 地域避難所選定の推奨</p> <p>④ 過去一年間の改善点 自治会、町内会での防災講演等を通じて、地域避難所の選定についても啓発を行った。</p>	<p>≪地域避難所選定箇所数≫ 67箇所</p>

自殺予防対策分科会

課題1	自殺問題への理解と自殺予防の必要性啓発	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
啓発活動の展開	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、委員の所属する団体の職員、利用者、区役所</p> <p>② 対象 通勤通学者、一般区民</p> <p>③ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前啓発グッズ配布 ・ 図書館での企画展や区民まつりでのパンフレット配布 ・ 他事業での説明、パンフレット配布 <p>④ 過去一年間の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施駅の拡大 ・ 連携事業の拡大 	<p>≪大船駅キャンペーン（9月・3月、夕方）≫ 各1,000人対象</p> <p>≪港南台駅周辺キャンペーン（3月）≫ 500人対象</p> <p>≪区民まつり≫ 1,300人</p> <p>・ 血液対策と連携 献血協力者への啓発</p>

課題2	自殺予防の担い手育成	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
ハートフル サポーター	<p>① 実施者・協働者 区役所精神保健福祉相談担当職員 区役所 嘱託医など</p> <p>② 対象 ・ 栄区役所職員のうち、ア 転入者、イ 研修を受けていない者 ・ 保健活動推進員</p> <p>③ 実施内容 全国、横浜市、栄区における自殺の現状、自殺予防対策の概要、具体的な対応方法</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・ 保健活動推進員に向けての研修を実施した。</p>	<p>《養成研修実施回数》 3回</p> <p>《研修受講者数》 114人</p> <p>《効果測定の正答率》 実施前76.6%→ 実施後84.7%</p>

課題3	自殺のハイリスク者への介入	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
ハイリスク者への 支援強化	<p>① 実施者・協働者 自殺予防対策分科会委員の属する機関職員等</p> <p>② 対象 ア：栄区内医療・福祉等事業者など イ：自殺ハイリスク者</p> <p>③ 実施内容 ア：メンタルヘルス支援ネットワーク会議、メンタルヘルス従事者専門研修の実施による、援助者のスキルアップ イ：自殺ハイリスク者（自殺未遂者）向けのパンフレット作成</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・ ハイリスク者支援ツールとして、カード、リーフレット、パンフレットを作成。</p>	<p>《メンタルヘルス支援ネットワーク》 8月、11月、2018年2月</p> <p>《メンタルヘルス従事者専門研修》6月</p>

防犯対策分科会

課題	振り込め詐欺の増加	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2017年度の実績・成果
振り込め詐欺の被害者層への啓発実施	<p>① 実施者・協働者 自治会・町内会、栄防犯協会、栄防犯指導員連絡協議会、栄区商店街連合会、栄区消費生活推進員の会、栄警察署、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 高齢者</p> <p>③ 実施内容 講座・講演による振り込め詐欺の啓発、金融機関での声掛け、街頭キャンペーン等の啓発、防犯情報配信</p> <p>④ 過去一年間の改善点 多くの区民の目にとまるように、広報栄区版の特集面を使った振り込め詐欺対策の啓発や、交通安全対策分科会と協力して啓発用回覧板を作成した。</p>	<p>≪講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数≫35回</p> <p>≪金融機関での声掛け回数≫6回</p> <p>≪街頭キャンペーン等の啓発≫5回</p> <p>≪防犯情報配信≫104回</p>